

保存の方策を決定・選択するための一覧表

(出典：木部徹「利用のために保存する—公共図書館と資料保存」『とりつたま』8 p.1-10, 1992)

保存のニーズをつかむ			保存のためのアクションと技術				
現物保存の必要性のレベル	モノとしての状態のレベル	利用頻度のレベル	保管環境 (防く技術)	容器的必要性 (防く技術)	利用と点検 (点検する技術)	代替と廃棄 (取り替える技術) (捨てる技術)	治癒的な措置 (治す技術)
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
A				環境制御されていれば、そのまままで可	そのまま利用が原則だが制限も。後に点検	とりわけ貴重なものはモノとしての状態がよいものでもハードコピーやマイクロ等で代替し、これを利用させることもある	利用による傷みのうち、非専門的な簡単な補修でよい場合は三原則に則して行う。傷みがひどいときには下の範疇(C)に入る
B	必ず現物として残す		制御は必須	できるなら容器 できるなら容器 そのままでも可	そのまま利用か制限。前に点検し、利用者に注意。後にも点検		
C				容器	右の代替物を利用へが原則。現物の利用は極力制限する	ハードコピーやマイクロ等で代替しこれを利用へ	そのままでも、利用によっても、傷みが広がるようならば専門的な措置をとる
D				そのまま or 容器 そのままでも可	後に点検	右の治癒的な措置でも利用不可能な場合には、現物を現物で代替する。これが不可能ならば下の範疇(F)に入る	利用による傷みのうち、非専門的な補修でなければ破壊的・可逆的に行う。傷みがひどければ下の範疇(F)に入る
E	できるだけ現物として残す		制御が望ましい	そのまま or 容器 そのままでも可	前後に点検		

F				容器 できるなら容器 できるなら容器	現物利用は制限し、右の代替へ	現物による代替か、不可能ならばハードコピーやマイクロなどで代替。廃棄か否か決める。	現物を廃棄せず残すならば専門的な措置をとる
G	紙資料					右の治癒的な措置でも利用不可能な場合には、現物で代替する。これが不可能ならば下の範疇(I)に入る	利用により傷んだら、非専門的な措置をとる。必ずしも可逆的である必要はない。ひどい傷みがひろがるようならば下の範疇(I)に入る
H		代替物でも可					
I				制御が望ましいが、ひどい環境でなければ可	できるなら、代替物ができる間、臨時の簡単な容器に入れておく	利用頻度の高いものから現物を現物で代替するか、ハードコピーやマイクロにする	代替ができたなら現物は廃棄する
J						定められた期間内での利用の要望が高ければ、利用頻度の高いものから代替もある	定められた期間内の利用により傷んだら非専門的な補修を。可逆的である必要はない。期間内で利用不可能になった場合には下の範疇(L)に入る
K		一時的な利用に供するだけで後に廃棄					
L						一般的に「一時的な利用に供するだけ」の資料は当初は新しい資料が多く、「モノとしての状態のレベル」が×であるものは少ない。しかし当初から、あるいは利用により×のものについては、期間内での利用に不可欠ならば代替をすることも可。ただし、期間内であっても廃棄されることもある。普遍的な原則はない。	

表3 東京大学経済学部資料室蔵書劣化調査項目一覧

1	No.	資料ID
2	請求番号	旧分類
3	表題ほか	バーコードが定まらないもの
4	出版年	合冊製本されたもので年のまたがるものは古いものを
5	ページ数	概算
6	ハード 糸 中綴じ	本かがり等、本体が糸で中綴じされている
7	ハード 糸 平綴じ	糸でからげ綴じ。合冊製本のミシン綴じを含む
8	ハード 抜き	麻緒等で平抜き綴じ
9	ハード 接着剤	ペラの丁の背小口を接着剤で(無線綴じ)、網代綴じ
10	ハード 簡易表紙	ノド部に接着テープがあらかじめついたハードカバーくるみに、本体をそのまま接着
11	ハード 他	以上に該当しないもの
12	フレキ 平針金 外から	フレキシブルなカバーで本体をくるみ、カバーごと外から針金綴じ
13	フレキ 平針金 内に	本体を平で針金綴じ、フレキシブルなカバーでくるみ
14	フレキ 糸 中綴じ	本体を中(折り)で糸綴じ、フレキシブルなカバーでくるみ
15	フレキ 糸 平綴じ	本体を平で糸綴じ、フレキシブルなカバーでくるみ
16	フレキ リング、スパイラル他	金属製のリングや螺旋・プラスチックで綴じ。文具のファイル形式なども含む
17	フレキ 接着剤	ペラの丁の背小口を接着剤で(無線綴じ)
18	フレキ 他	以上に該当しないもの
19	パンフ 糸 中綴じ	表紙を含む括ひとつを糸で中綴じ
20	パンフ 金属 中綴じ	表紙を含む括ひとつをホッチキス等で中綴じ
21	パンフ 他	以上に該当しないもの
22	製本状態 良	綴じ、表紙との接合で問題なく利用できる
23	製本状態 難軽	綴じ、表紙との接合で問題がある。潜在的なもの(現状は良好だが利用によって傷む)も含む
24	製本状態 難重	綴じ、表紙との接合で問題がある。丁外れ、綴じ外れ、表紙外れ他、通常の利用に支障あり。
25	見開き性 良	ノドまで無理なく開く
26	見開き性 難軽	手で押さえればノドまで開いた状態を保つ
27	見開き性 難重	手で絶えず抑えていないとノドまで開いた状態を保てない
28	本体劣化 物理 good	物理的強度が保持されており、利用に問題がない
29	本体劣化 物理 weak	通常の利用に問題ない物理的強度が保持されているが、乱暴に扱うと破れたりする
30	本体劣化 物理 brittle	物理的強度が低下し、通常の利用でも壊れてゆく
31	本体劣化 物理 very brittle	物理的強度が極端に低下し、利用が困難である
32	pH 2秒ぐらいで黄色に	pHチェックペンで短線を書いた2秒ぐらいの間に急速にあるいは徐々に黄色に変色する。
33	pH ごく緩慢に黄色に	pHチェックペンで短線を書いて数秒は青色を保持するが、ゆっくりと黄色に変色していく
34	pH 青~紫	紙中にアルカリが含まれた「中性紙」「弱アルカリ紙」

表3 東京大学経済学部資料室蔵書劣化調査項目一覧

35	挟み物	形態	ペラ	一枚物(複数も)。折った状態も含む
36	挟み物	形態	冊子	なんらかの綴じが行われ冊子形態になっている
37	挟み物	形態	他	以上に該当しないもの
38	挟み物	状態	本体と分離	本体に接合されず、そのまま挟み込み
39	挟み物	状態	本体と接合	接着剤その他で本体に接合している
40	挟み物	状態	封筒等で分離	封筒などに入って、そのまま挟み込み
41	挟み物	状態	封筒等で接合	本体に封筒等が貼ってあり、その中に収納されている
42	挟み物	その他		以上に該当しないもの
43	イメージ材料			墨、インク等、紙媒体上で字や画像を形成するモノを指すが、この調査ではジアゾやこんにやく版など経時し褪色するも

表4 東京大学経済学部資料室劣化調査項目別結果表

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	12	13	14	15	16	17	19	20
No.	請求番号	表題ほか (No.不明の場合)	出版年	頁数	製本形態												
					ハードカバー くるみ					フレキカバー						パンフレット	
					糸中綴じ	糸平綴じ	抜き	接着剤	簡易表紙	平針金 外から	平針金 内に 外くるみ	糸中綴じ	糸平綴じ	リング、スバ イラル等	接着剤	金属 平綴じ	金属 中綴じ
全サンプル数 814点のうち(点数)					66	194	162	48	116	1	77	24	1	1	105	8	5
比率					8.1%	23.8%	19.9%	5.9%	14.3%	0.1%	9.5%	2.9%	0.1%	0.1%	12.9%	1.0%	0.6%
全点数 180,765点のうち(点数)					14,642	43,022	35,972	10,665	25,849	181	17,173	5,242	181	181	23,319	1,808	1,085

22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	38	39	40	41
製本状態			見開き性			本体劣化レベル						挟み物						
良	難 軽	難 重	良	難 軽	難 重	物理的 (耐折強度)				pH (チェックペン変色)			形態		状態			
						good	weak	brittle	very brittle	2秒ぐらいで 黄色に	ごく緩慢に黄色 に	青色を保持	ペラ 複数も	冊子	本体と分離	本体と接合	封筒等で分離	封筒等で接合
746	20	48	423	236	155	564	79	90	81	448	134	232	27	3	13	7	1	9
91.6%	2.5%	5.9%	52.0%	29.0%	19.0%	69.3%	9.7%	11.1%	10.0%	55.0%	16.5%	28.5%	3.3%	0.4%	1.6%	0.9%	0.1%	1.1%
165,581	4,519	10,665	93,998	52,422	34,345	125,270	17,534	20,065	18,077	99,421	29,826	51,518	5,965	723	2,892	1,627	181	1,988

表5 調査結果と予想される対策

対策の優先順位	状態	該当調査項目	全体に占める比率 %	該当点数 (180,765点中)	予想される対策
1	本紙 brittle, very brittle	30, 31	21.1	38,142	代替を優先、脱酸性化はオプション、現物は保存容器で別置か、オプションで廃棄
2	すでに製本が壊れている、または壊れかかっている	23, 24	8.4	15,184	brittle, very brittle のを除き、見開き性のよい再製本
3	本紙が酸性	32, 33	71.5	129,247	酸性で、Weak または Good のものを脱酸性化
3	見開き性が悪く、コピーで製本が損壊する、または損壊する可能性がある	26, 27	48.0	86,767	brittle, very brittle のを除き、見開き性のよい再製本
4	本紙 weak	29	9.7	17,534	脱酸性化
4	本紙 good	28	69.3	125,270	酸性のものは脱酸性化
5	本紙が中性または弱アルカリ	34	28.5	51,518	コピーで損壊する、または損壊する可能性のあるものを見開きの良い再製本に

経済学部資料室について

東京大学経済学部資料室は、経済学の実証的研究のため各種資料の収集及び管理を目的として、昭和29年4月(1954年)に設立されました。これにより経済学部の図書部門は、一般資料部門としての和・洋書掛(現在は図書受入・図書整理掛)と資料部門とからなり、前者が個人や大学によって発表される理論的学術文献を中心とするのに対して、資料室は主として第二次大戦後の諸分野における経済活動の実態を分析した資料の収集・整理が主要な任務となりました。

昭和38年4月、東京大学経済学部の附属研究施設として日本産業経済研究施設(略称:産経研)が設置され、昭和41年に現在の経済学部の場所に移転すると、資料室は組織上産経研の一部となりました。現在の資料室は経済学部の5階に位置しますが、これは昭和38年の新館建築に際して産経研関係の部門がこの階に集められた経緯によります。産経研は日本の産業および企業経営に関する統計資料を全国的・一般的なものだけでなく個別企業や地方資料にもわたって広汎かつ系統的に収集整理し、経済学・経営学両部門の密接な連携により総合的実証研究を行うことを目的に掲げていました。産経研は平成10年4月に廃止され、新たに附属日本経済国際共同研究センター(CIRJE)が設置されました。これに伴い資料室は、同センターの附属施設となり現在に至っています。

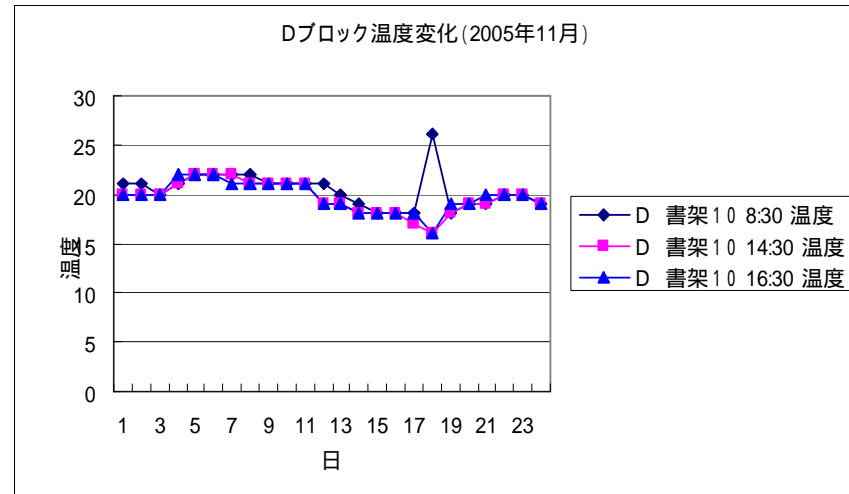
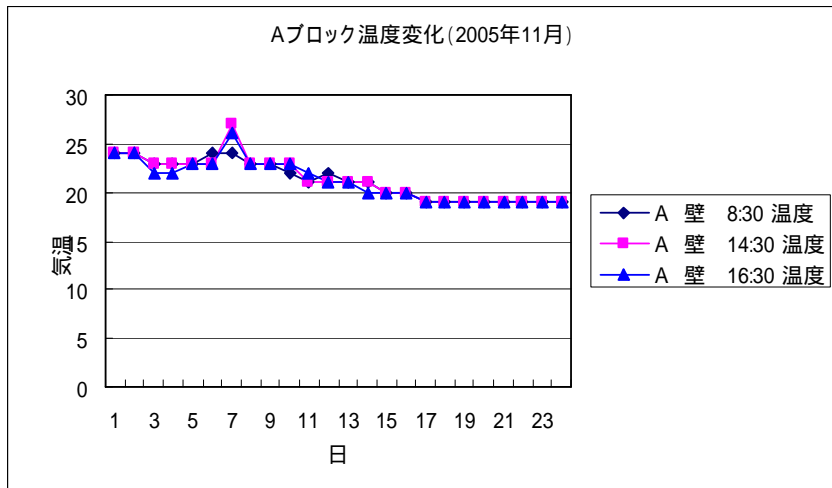
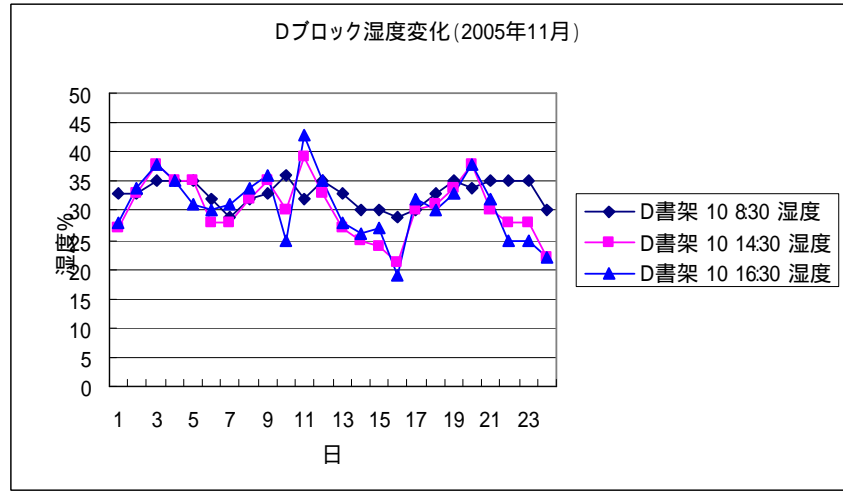
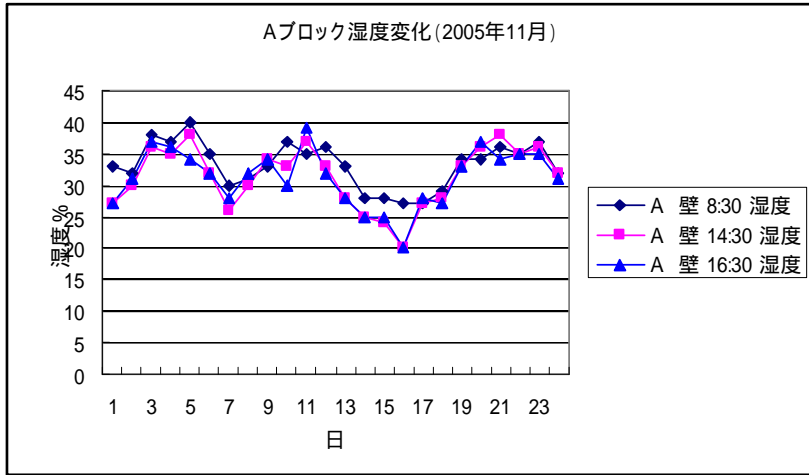
資料室の扱う資料は、官庁および地方公共団体、民間各種団体、国際機関により編著された統計、調査報告書、各団体の経済活動報告書、労働組合関係資料、その他各種の調査・研究資料などです。年間約3000冊余りの冊子体資料の他、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、電子媒体資料(CD-ROMなど)を数多く受け入れています。さらに、近現代の一次資料の収集・整理も行っており、それらは「国労関係資料目録」、「戦時海運関係資料目録」、「濱田徳海資料目録」として順次目録を刊行しています。これらの資料の探し方については経済学部図書館の資料の探し方をご覧ください。

資料室は事実上経済学部図書館の一部門としての役割も果たしています。受入れた資料は図書館の受入図書と共に経済学部図書館の書庫に収められています。資料室受入分は主として書庫の5～7層及び地層Cブロック・Eブロックに配架してありますが、物理的に他の層と境界があるわけではありません。

資料の出納、ILL等については経済学部図書館図書運用掛が一括して行っています。利用方法など閲覧に関することは図書運用掛にお問い合わせ下さい。

参考文献

- ・東京大学経済学部編『東京大学経済学部五十年史』(東京大学出版会、1976年4月)
- ・経済学部部局史編集委員会編『東京大学百年史 部局史1 経済学部』1985
- ・東京大学経済学部資料室編『資料分類表』1982.7



地層 平面図

